

第32回 どうする貞徳
〜妻木父子の決断①〜

妻木伝兵衛貞徳は、天文13(1544)年に明智広忠(明智光秀の伯父)のおそらく三男として、水野信元の姪(徳川家康の従姉)を母に生まれました。父広忠は斎藤道三、次いで織田信長に仕えており、信長が家臣の二・三男を馬廻衆として組織化していく中で貞徳も取り立てられて一家を興すことになりました。貞徳は明智家の庶家として、祖父頼安の例にならない「妻木」を名字としました。

天正10(1582)年6月、本能寺の変が起こります。貞徳の動向は不明瞭ですが、他の馬廻衆とともに京都内に宿泊していたはずですが、光秀の従弟、かつ明智一族の長老広忠の息子ですから、明智軍によって討たれる心配はなかったと思われるかもしれません。おそらく変の直後には明智・妻木一族の本領である妻木郷に戻り、東美濃地方を押さえる役割を担ったのではないでしょう

か。結果として、山崎の戦いから坂本城の落城に至る一連の戦いには直接的な関与がなかったため、戦後に謀反の責任を問われることもなかったのでしょう。その後の森長可による東美濃平定戦では、東美濃諸将の多くが反抗する中で、戦わずに家臣となる道を選びます。天正11(1583)年には領地の大幅な加増も受け、貞徳は森家の重臣となりました。

天正12(1584)年に勃発した小牧・長久手の戦いでは、羽柴秀吉に味方した森長可とともに徳川・織田連合軍と戦いました。長男の頼忠を森家本軍に配し、自身は内津峠に布陣しました。この内津峠付近でも合戦があり、内津妙見宮の社殿が焼失しています。これはおそらく森軍が大敗した羽黒八幡林の戦いの時のことでしょう。続く長久手の戦いでも森家は大敗、森長可は討死してしまいます。動



妻木伝入(貞徳)肖像画
崇禅寺蔵 土岐市指定文化財

揺した森家の隙を狙った徳川軍別動隊による東美濃侵攻作戦により、岩村・明知・小里・神籠の諸城が次々と陥落していく中、貞徳は最後まで屈することなく、高山表の戦い(肥田浅野・高山付近)で石川数正率いる徳川軍別動隊を撃退、妻木領を守り抜きました。

小牧・長久手の戦い後も貞徳は森家の重臣として妻木城を守り、関ヶ原の戦いまでに家督を頼忠へ譲って隠居、伝入と号しました。

イベントの
ご案内



開館44年収集の軌跡！

美濃桃山陶の展

2023年
6月10日(土) - 9月3日(日)
土岐市美濃陶磁歴史館